

パチカニに新列聖省長官
7月9日、教皇ベネディクト16世は、列聖省長官サライバ枢機卿の定年による退任願いを受諾し、新長官として、教理省局長を務めていたシラ名義大司教のアンジェロ・アマート師(70歳)を任命した。

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中 田 輝 次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148



8月・教皇さまの意向のために祈りましょう
① 神の偉大な賜物、創造
② 聖性への召命
③ 世界平和のために祈る

ヨゼフ 岩永 薫神父 帰天
7月6日午前10時36分急性肺炎のため長崎市聖フランシスコ病院で帰天。

82歳。
1926年4月28日、長崎市外海町牧野生まれ。55年3月21日福岡・大名町教会で司祭叙階。同年4月福岡・今村担任、同年7月福岡・地行担任、58年5月福岡小神学校。69年9月福岡担任、71年1月福岡担任、83年3月三浦町担任、96年3月大崎主任、97年3月引退。

後は大司教館で静養していた。助任として着任した若い司祭を立派に導き、引退した大司教館では一階詰めの所に訪ねて来るすべての司祭と気さくに歓談していた。
7月7日浦上教会信徒会館で通夜 葬儀・告別式は8日午前11時に浦上教会で高見三司大司教司式のもと行われた。

第49回 国際聖体大会 カナダ
今回で49回目を迎えた国際聖体大会が6月15日から22日まで、カナダのケベック市で行われた。海外からは期間中約1万人が会場へ詰め掛け、日本からは公式巡礼団として高見大司教を団長に24人が参加した。
約1万5千人を収容できるスケート場がメイン会場となり、リンク上に円形状の内陣が設置された写真。15日の開会式後、16日から21日まで午前中毎日聖体についての講話があり、荘厳ミサで午前中のプログラムを終えた。照明によってさまざまな色に染まる内陣を見て、参加者の1人は「まるで、聖体のイエスさまが私たちをいろいろな気持ちで見守っているようだった」と感想を漏らした。



午後から一行は市内見学と教会巡礼に出かけたり、講話の要点を聞いて互いの信仰体験を分かち合った。また、3時間半を超えた聖体行列や野外での閉会ミサの折、土砂降りの中で行われた聖体拝領は、参加者に神との交わりを特別なものと感じさせてくれた。頭と体と心で聖体の神秘を探る巡礼となった。

「パウロの生き方に学ぶ年」
また、キリストの救いを受ける権利を持つて多くの人々がいるので、私たちは宣教によってその人々に働き掛ける使命があります」と力強く述べた。

また、パウロ年をどのように過ごすかについてこの1年間「福音のために(1コリント9:23)長崎教区は歩んでいこうと呼び掛けた。福音のために自分を変えていただくこと、変えていただく必要があることに気付かせてもらうことを願うように求めた。パウロの手紙をよく読み、ヒントを得るように励ました。



開年ミサは、パウロの肖像画を先頭にしている。列から始まった。会衆からよく見える場所にパウロの肖像画が据えられ、ミサに入る心の準備になった。

「パウロは、キリストによって徹底的に変えられた人でした。パウロ年を過ごす中で、私たちが徹底的に変えられることを得るよう励ました。

「パウロは、キリストによって徹底的に変えられた人でした。パウロ年を過ごす中で、私たちが徹底的に変えられることを得るよう励ました。

「パウロは、キリストによって徹底的に変えられた人でした。パウロ年を過ごす中で、私たちが徹底的に変えられることを得るよう励ました。

パウロ年の開幕を告げるミサ

2007年度決算に関する報告

大司教区の2007年度の収支決算書が6月9日、教区顧問会で承認された。
今年度も昨年度に引き続き、経常と財務を一緒にした収支決算書となっている。
教区費(大浦天主堂からの補てんをなくすことを目指した)は、2007年度は前年度より、約600万円の減少となっている。これは、高齢化と信徒数の減少、および経済環境の落ち込みが影響していると思われる。信徒の皆さまのご尽力に感謝すると同時に、厳しい財政事情の中でも今後とも協力くださるようお願い申し上げる次第である。
昨年度同様(教区経済問題評議会の諮問に従い)、収支予算・決算は単年度方式をとっている。信徒の皆さまからの浄財を有効に活用するためには、必要以上の繰越金を残さないためである。
高見大司教は、一連の教区経済改革の中で、「社会保険制度導入などによる多少の煩雑さを感じさせることになるかもしれないが、少しでも理解していただき、今後も信徒の皆さまをはじめ、主任神父さま方のより一層の努力と協力をお願いしたい」と話された。
センター事業部の収支決算書も掲載している。宿泊者数(目標10,000人、実績7,407人)・会議室利用率は若干の減少であったが、カフェ部門はほぼ予定通りの売り上げとなった。今年度は、最終的には約1,300万円の借入となっている。3年連続の赤字であるが、改善の兆し・手応えは、十分感じられて来ているので、顧問会で1年をかけて、センターの事業部門の問題点を検討していくこととなった。

カトリックセンター事業部門

収入の部	
科 目	決算額
旅館売上(宿泊料)	34,569,480 (22,768,500)
(会議室)	(2,166,780)
(食堂)	(9,634,200)
雑収入	1,187,212
立替金	12,971,621
合 計	48,728,313

支出の部	
科 目	決算額
給料及手当	22,636,325
福利厚生費	3,948,490
什器備品	0
消耗品費	2,093,818
修繕費	1,271,300
旅費交通費	999,495
通信費	463,389
水道光熱費	2,644,686
下水使用料	281,140
燃料費	725,760
広告宣伝費	320,922
租税公課	2,591,723
交際接待費	13,860
保健衛生費	889,250
雑費	2,328,647
原材料仕入代	5,765,688
保険・会費	668,720
消費税	1,085,100
工事費	0
立替金支出	0
合 計	48,728,313

長崎大司教区

[収入の部]		
科 目	本年度決算	(%)
1.経常収入の部	306,051,747	73.3
教区費	146,344,625	35.1
信徒司祭修道会	130,399,625 11,495,000 4,450,000	
特定献金	39,971,181	9.6
神学生養成援助費	14,274,698	
広報の日献金	2,901,004	
聖ベトロ献金	8,228,358	
難民移住移動者献金	2,987,628	
世界宣教献金	2,960,483	
宣教地司祭育成献金	3,144,703	
児童福祉献金	5,474,307	
特別献金	60,230,335	14.4
寄付金	28,880,337	
献金収入(本部関係)	24,994,100	
ミサ奉納金(ミサ奉納金)	2,599,000	
ミサ献金(教区行事)	3,756,898	
分担金	8,923,273	2.1
小神学院(他教区)	8,766,831	
コレジオ(他教区)	156,442	
その他	17,574,383	4.2
諸委員会収入	3,675,483	
保険金収入	2,173,625	
家賃収入	3,150,000	
受取利息	145,847	
雑収入	8,429,428	
前年度越高	33,007,950	7.9
前年度越高	33,007,950	
2.財務収入の部	111,296,781	26.7
固定資産収入	0	
受取家賃	0	
その他の財務収入	107,326,882	25.7
内部貸付金回収	11,000,000	
立替金返済収入	0	

[支出の部]		
科 目	本年度決算	(%)
1.経常支出の部	315,075,113	75.5
祭儀費	3,634,733	0.9
祭儀費	3,634,733	
諸委員会活動費	19,705,107	4.7
宣教委員会	1,484,507	
生涯養成委員会	4,909,555	
信仰教育委員会	2,252,837	
典礼委員会	1,326,197	
財務委員会	0	
広報委員会	6,544,969	
家庭委員会	640,146	
召命委員会	703,827	
青少年委員会	900,337	
福祉委員会	424,814	
工・諸宗教委員会	517,918	
宗教活動費	3,339,225	0.8
教区評議会	1,899,225	
法務事務所	1,440,000	
司祭養成費	114,004,155	27.3
大神学校	39,832,501	
コレジオ	33,954,546	
小神学校	40,217,108	
負担金	27,881,824	6.7
中央協議会送金	18,151,766	
使徒座送金	9,130,058	
心のともしび	600,000	
司祭生涯養成費	10,091,368	2.4
黙想研修会	3,234,618	
司祭職の日	1,976,750	
海外留学費	4,880,000	

[収入の部]		
科 目	本年度決算	(%)
助成金	14,999,559	3.6
小教区助成金	1,634,630	
特別行事	13,364,929	
不動産管理費	3,010,345	0.7
管理費	315,088	
租税公課	2,695,257	
人件費(本部)	75,296,870	18.0
聖職者(司教・司祭)	22,544,400	
職員(シスター・一般)	40,269,000	
引退司祭	12,483,470	
福利厚生費(司祭団)	7,102,814	1.7
法定福利費	0	
医療費	2,830,730	
医療共済制度	1,629,750	
年金(掛け金)	2,642,334	
維持管理費	15,169,045	3.6
大司教館	9,467,956	
センター(管理部門)	5,701,089	
事務費	11,191,981	2.7
本部事務室	6,222,994	
法人事務所	4,968,987	
予備費	0	
予備費	0	
今年度残高	9,648,087	2.3
今年度残高	9,648,087	
2.財務支出の部	102,273,415	24.5
固定資産支出	8,889,044	2.1
購買部仕入	8,889,044	
その他財務支出	36,632,094	8.8
補助金	10,000,000	
利子支払(借入金)	3,660,473	
内部貸付金	10,000,000	
立替金	12,971,621	
積立金支出	56,752,277	13.6
大司教積立金	3,000,000	
土地・建物建設資金	20,000,000	
社保事業所積立金	23,752,277	
財務運用資金	10,000,000	
支出の部合計	417,348,528	100.0

平和祈願祭2008, 8, 9

テーマ・如己愛人

たいまつ行列
集合：午後6時30分(浦上教会)
出発：午後7時15分～

平和祈願ミサ

開始：午後8時～(平和公園)
注・雨天の場合は浦上教会で実施します
主催：カトリック長崎大司教区・平和祈願祭実行委員会



2008年 四旬節愛の献金
総額 7,467,997円
(6月11日現在)
皆さまのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。
カリタスジャパン長崎支部

もつと知りたい 日本の殉教史

第7回 殉教者のこころ

長崎純心大学学長

片岡千鶴子 修道女

今回は迫害下のキリシタンたちの心について考えてみます。殉教者たちは言語に絶する拷問の中でデウスへの強い信仰を支えられ、愛と希望と平和のうちに命をささげました。それは迫害者さえ驚かせる死でした。どうしてこのような死をキリシタンたちは迎えること

ができたのでしょうか。それは何よりも殉教は十字架上のキリストにあやかっただけの生命をささげることであること、知っていただくからです。「呵責を受ける間は、イエズスの御バシヨンを(御受難) 目前に観ずべし・・・その砌に及んでデウスより格別の御合

力あるべければ、深く頼母しき心を持つべし」(『マルチリヨの心得』)と教えられています。同時に「ヒイデスに対して命を捨つること、人間の力に非ず、デウスの御合力なくしては丸血留になること叶はざるなり」(『マルチリヨの勸め』)とあるように、殉教は自分の力ではできないことを知っていたからです。そして「デウスのご合力、つまり神の御助けを求めるときに、彼らは祈りと犠牲、隣人愛の実践に励みました。また

殉教者の信仰に学ぶ 教区司祭黙想会

6月10日～13日

2008年の教区司祭黙想会は、溝部 脩高松教区司教を迎えて、188殉教者からの具体的な示唆をいただいた。トマス金罌兵衛神父からは柔軟で想像力たくましい牧者の姿を学び、また結城了雪神父の最終からは、責任転嫁の多い時代に、自ら責任を背負って生きる信仰者が求められていると感じ



司祭全員による感謝のミサ (大司教館)



溝部 脩高松司教

殉教者の信仰は、現代人を生き生きとさせる。そのことをはつきり知らされた黙想会となった。

列福式の特別献金

長崎教区内の遠隔地からの列福式参加者を支援するなどの特別献金が6月1日に行われた。2回目の特別献金は8月10日に行う。支援は、長崎市までの貸し切りバスの片道交通費などにあてられる。



教区広報担当者全国会議

列福式への準備進む

完成まで10年を要してしまいましたが、長年通い慣れた教会堂の解体には寂しいものがあり、道路越しに眺める信徒の姿が見られなくなかった不便さを耐えたことがかえって喜びを大きくしたようです。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・ヨゼフ岩永 薫神父の逝去につきましては早速、ご重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しました。各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき誠にありがとうございました。紙上を一つ拝眉のうえ御礼申し上げます。

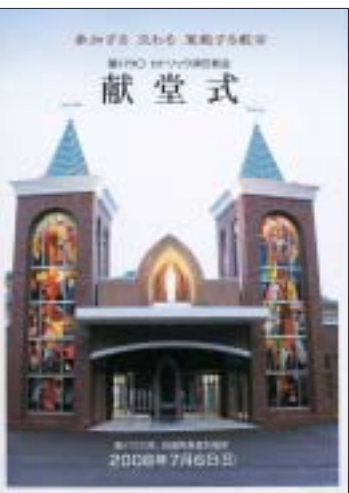
寄付

長崎大司教区 ●故マリア森 アヤ様 (故人のご遺志により) 長崎カトリック神学院 ●横田ひとみ様(三浦町) ●山口勝子様(浦上) 右の方々からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

香典返し お礼とご報告

長崎大司教区 ●廣田智孝様(三浦町) ●故ヨハネ廣田義雄様 ●黒川 繁様(水主町) ●故ベトロ黒川初幸様 ●深堀様(八幡町) ●故ラウレンシオ 深堀行一様 ●長崎コレジオ ●山下末次様(香焼) ●故ヨアンナ ●山下美代子様 ●森内吟子様(浦上) ●故ベトロ森内和年様 ●向井 治様(黒崎) ●故クララ向井マシ様 ●山下末次様(香焼) ●故ヨアンナ ●山下美代子様 ●島山 勇様(時津) ●故カタリナ島山セノ様 ●中田イサ子様(鯛ノ浦) ●故フランシスコ 中田輝明様 ●橋本テイ様(浦上) ●故パウロ橋本功助様 右の方々から神学生養成などのために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。お礼とご報告を申し上げます。お礼とご報告を申し上げます。

計画から10年 滑石教会献堂の感謝



教さま司式による献堂式が行われた前聖堂は多くの信者に愛されていましたが、急激な信徒の増加でミサ中聖堂に入りきれない状態が続きました。また建物の経年劣化も目立ち、「新しい聖堂を」との声が上がり建設計画が始まったのですが、建設費の捻出や信徒が望む建物をとの要望などの検討を繰り返して

はじめに、教会建設中近隣の教会の皆さまに大変お世話になりました。滑石の信徒を心よく受け入れてくださりミサに

あずかされたことに感謝します。また皆さまのご指導とご援助、お祈りにも心よりお礼申し上げます。1971年に里脇大司

撮影希望の小教区は、9月30日までに教区広報委員会に腕章の必要数をお申し込みください(1小教区3枚まで)。後日、撮影上の注意事項と合

カトリック長崎大司教区 大司教 高見 三明

平成21年度 園児・児童・生徒募集 Love to learn and Learn to love 第1回 小中オープンスクール 9月20日(土) 9:30~11:00 SED スペシャルイングリッシュデー 11:30~12:20 学校説明会 昼食(無料) 幼稚園 TEL 844-2667 小中学校 TEL 844-1549 http://www.1.cncm.ne.jp/%7Est-maria/

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式 (有) 栄光式典社 代表取締役 ヨハネ 西村 勇二 長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011 24時間営業 FAX(095)843-9896

雲仙の旅情やさしいおもてなし 殉教者の誉れの地 島原半島の巡礼ご宿泊にどうぞご利用下さいませ。 雲仙 有明ホテル 代表取締役 アントニオ 栗原 盾夫 女将 ルチア 栗原トシエ 〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙 380 TEL 0957-73-3206 FAX 0957-73-2254 E-mail info@yumei-hotel.co.jp URL http://www.yumei-hotel.co.jp

水主町教会創立50周年を祝う

7月13日(日) 大村・



水主町教会(主任岩崎晋吾師)で小教区創立50周年を祝った。11時から高見大司教の司式、小教区歴代の司祭も集い記念ミサ、13時から長崎インターナショナルホテルで祝賀会が行われた。関係司祭、修道女、牧師、植松教会の代表信徒などの



「対話を通して考える。」「殉教者をださない社会」をテーマにシンポジウム2008 国家と差別(日本カトリック部落問題委員会主催、長崎教区共催)が6月14日、カトリックセンターホールで行われた。同委員会委員長・平賀

殉教者をださない社会シンポジウム

「対話を通して考える。」「殉教者をださない社会」をテーマにシンポジウム2008 国家と差別(日本カトリック部落問題委員会主催、長崎教区共催)が6月14日、カトリックセンターホールで行われた。同委員会委員長・平賀



人が「差別とキリスト教」をテーマに、シンポジウム3 殉教者(日本26聖人記念

保育施設協会全国研修会

7月1日から3日間、第38回日本カトリック保育施設協会全国研修会が長崎市内のホテルをメイン会場に開催、全国から関係者約200人が集まり、テーマ「いのちのちみもり・育む」について学び合った。1日目は総会、高見大司教司式の開会ミサ(浦



上教会)、平和巡礼と懇親会。2日目、ミサ(日本26聖人記念聖堂)に始まり、大学院教授で臨床心理士の西村喜文氏によ

恩人を含む200人を超える参加者の中で節目の年の喜びを分かち合った。50周年を迎えるに当たって1年前から特別の祈りと教会の環境整備、分かち合いや講演会などを行い、節目の年を成長の機会とするよう信徒たちが工夫してきた。記念式典はその「総括する会」であるとともに、また小教区共同体の新たな「出発式」でもあった。

女性団体連盟総会に出席

一長崎教区連合婦人会一

教区連合婦人会は5月20(22日)、日本カトリック女性団体連盟総会に参加、指導司祭・山内実師とともに森内千恵子会長ら14人が仙台を訪れた。1日目は元寺小路教会で総会。2日目は



教区連合婦人会総会(5月31日カトリックセンター)

春の公開聖書講座

6月12日、教区生涯養成委員会主催の公開聖書講座がカトリックセンターで行われ、約130人が参加した。講師の高見三明大司教は「福音書の中の旧約聖書の役割をテーマに、旧約聖書と新約聖書は互



そして、旧約と新約とが関連する意味について、▼神さまの救いの計画は創世記のはじめから一貫している▼特に新約・イエスさまによって神さまの救いの計画が実

「ながさき巡礼」を「旅フェア」で紹介 6月19(22日)、パシフィコ横浜で、「第14回日本観光博覧会」の「2008」開催。10万人が来場した。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進を契機に、新しい旅の提案「巡礼」を通して長崎への関心を



高めようと、長崎県観光連盟が「ながさき巡礼」の紹介ブースを設置。20日は東京の日本カトリック会館で旅行エージェンツやメディア関係者に、「ながさき巡礼」とは何か、そのあるべき姿などについて、長崎巡礼センター長の中村満神父が話し、21日は横浜のブリスで、同センタースタッフも良き巡礼者の来崎を願ってパンフレット配布を手伝った。

た。3日目は山形県米沢教会へ。今年列福式を迎える米沢の殉教者53人の殉教地3カ所を巡った。また5月31日、6月1日は教区連合婦人会総会をカトリックセンターで行い、新役員が任命された。会長 山岡千代子

(小ヶ倉、南地区会長) 副会長 中村 泰子 (早岐、佐世保地区会長) 同 吉川かづ子 (平戸、平戸地区会長) 書記 田中 直美 (長与、北地区副会長) 会計 牧山 昌子 (愛宕、南地区副会長) 理事 横山ひとみ (東長崎、北地区会長) 同 森田江里子 (浦上、中地区会長) 同 松岡 麗子 (稲佐、中地区副会長) 同 白濱美知子 (真手ノ浦、上五島地区会長) 同 岩下 順子 (福江、下五島地区会長)

いに補い合い、福音書の一字一句がある意味で旧約聖書に繋がっている、と相対箇所を紹介しながら分かり易く説いた。

現したことを旧約聖書が証明した▼イエスさまの教えこそが私たち人間にとって本質的なものだということを感じ取りにす

みさかえの園「むつみの家」落成(小長井)



けがれなき聖母の騎士修道女会を母体とする社会福祉法人「聖家族会」(中山和子理事長)運営の重症心身障害児施設みさかえの園「むつみの家」がこのほど完成し、高見大司教を迎え祝賀落成した。

新施設は鉄筋造り3階、地下1階、病棟居室53室。第一に各病棟、浴室、各種リハビリ室など利用者の利便に沿うように計画された。定員は短期入所10床を含む180床。関係者は「全面新築で障害者の要望、外来診療、在宅福祉、療育福祉サービスにも応えることができました。写真は新築落成した「むつみの家」



5月31日、肺がんのため新上五島町有川病院で帰天。71歳。新上五島町鯛ノ浦生まれ。5人の子供をもうけ、長男は教区司祭。毎日ミサに行くため、漁業から畜産業に職を変える。

がんの告知後も無用な延命よりも生きざまを家族に残すことを選んだ。ミサと告別式は6月2日、鯛ノ浦教会で司教総代理橋本師ほか20人の司祭、多数の参列者ともに行われた。

マリア 針尾 サキ修道女

(お告げのマリア修道会)



6月1日、黒島修道院で帰天。91歳。佐世保市黒島出身。17年間のマリア会海星学園での奉仕や、教会奉仕などに務めた。明るく、こまめに働き、惜しみなく人をもてなすシスターだった。

葬儀ミサ・告別式は3日、黒島教会で行われた。

マリア 中村 鈴代修道女

(お告げのマリア修道会)



6月22日、聖フランシスコ病院で帰天。72歳。長崎市銭座町で生まれ、被爆した。専任カテキスタとして浦頭小教区の信仰教育に献身し、保育園園長としても活躍した。また、会長として二期を務め、明るく柔和に会員を導いた。

葬儀ミサ・告別式は24日、本部聖堂で行われた。

る、と締めくくった。講座後の茶話会では、参加者が和やかな雰囲気の中で、交流のひとときを過ごした。

6月11日、五島市聖マリア病院で帰天。85歳。三井楽町生まれ。保育士として25年間勤め、子どもたちの成長に心を注いだ。

下積みの仕事と黙々と引き受け、誠実に果たすシスターだった。葬儀ミサ・告別式は13日、三井楽教会で行われた。

ルチア 山本 トヨ修道女

(お告げのマリア修道会)



7月4日、神ノ島修道院で帰天。94歳。お告げのマリア修道会の前身、聖婢姉妹会の会長としての任務を6年間務め、地域にあつては、保育事業・教会活動を通して、人々の信仰教育のために、精力的に働いた。

葬儀ミサ・告別式は6日、神ノ島教会で行われた。

アンナ 岩崎 キメ修道女

(お告げのマリア修道会)



7月6日、脳内出血のため入院先の聖フランシスコ病院にて死去。76歳。久賀島出身。三菱重工長崎造船所に勤務。6人の子供に恵まれ、熱心な信仰者の姿を生き、特に聖母信心に熱心だった。9年前から人工透析、晩年は闘病だった。葬儀ミサと告別式は7日、浦教会で行われ、高見大司教と40余人の司祭が列席、多くの友人に見送られた。

ペトロ 山村 章さん

(山村憲一師実父)



